

補習校だより

2017年2月21日発行



昼間の陽射しが少しずつ暖かくなってきました。今月はいよいよイラン暦(ヒジュラ暦)の12月、エスファンド月です。どの家庭でも新年に向けての大掃除や年末の買い出しに忙しくなる頃でしょう。

イランの新年ノウルーズは日本での春分の日にあたり、春の訪れとともに新しい年1396年が始まります。みなさま、どうぞ良い年末年始をお過ごしください。

今月(エスファンド月)の予定

第19回目授業 2月23日(木) 通常授業

第20回目授業 3月2日(木) イランの休日のため休校

第21回目授業 3月9日(木) 通常授業

3月16, 23, 30日の3回は休校です。4月6日(木)から授業再開します。

行事報告 日本人学校より出前授業がありました



2月2日(木)の1校時目に日本語補習校にて日本人学校より出前授業がありました。数年前より日本人学校の先生が本校にいらして出張授業をして頂いております。毎年、補習校一同で楽しみにしている行事です。今年度は『知っていた？こんなところに日本の歴史』というテーマで社会科の授業を内谷昌史先生に頂きました。



イランでもかつて放送されていて有名なテレビアニメ『一休さん』より、クイズ形式で室町時代の歴史を楽しく学べる授業内容でした。

作られた話だと思っていた子もいたなか、スライドショーと分かりやすい解説でアニメの各場面は実際の歴史をもとに作られていたことに興味を持った人も多かったのではないのでしょうか。いきいきとした表情で授業を聞く様子が印象的でした。



2校時目は日本人学校の先生方に補習校の授業を見学していただき、放課後に本校教員との懇談会で授業を見学した感想やアドバイスをいただきました。

今期は交流授業や出前授業後の授業参観などから、教員同士がお互いの学校の様子を身近に分かることができ、とても大きな収穫になりました。

☆☆☆作品紹介☆☆☆

3・4年生クラス

★3年生は授業の休み時間を利用して、保護者と日本人学校清水校長から『みんなの職業経験談』を聞き感想文を書きました。今まで3回行いましたが、第1回目モラディ律子さんの「看護師経験談」よりインタビューした内容と感想を掲載します。

【3年 うしこし さゆり】

今日は、かんごしのモラディさんにインタビューをしました。かんごしというのは、おいしやさんのてつだいをするしごとです。

「かんごしさんになるにはなん年べん強しないといけないのですか？」としつもんしました。

かんごしさんになるには、かんご学校で三年間べん強して、こっかしけんにごうかくしないといけないと言われました。



【3年 かとう ルミナ】

かんごしについて

かんごしの話を、モラディさんから聞く事が出来ました。

モラディさんから色いろな話を聞いて、かんごしは大へんなしょくぎょうなんだと思いました。

なぜそう思ったかと言うと、学校をそつぎょうするだけではだめで、国家しけんに合かくしないといけないからです。

また、きつい・きたないのほかに、夜きんのきんむがあるので、とくに、女せいは子育てしながらは大へんなので、一どやめてしまう人も多いことも知りました。

でも今、かんごしは五万人くらい人手ぶ足なので、一どやめてもまた、はたらけられるかんきょうが多い事も知りました。

わたしにとって、かんごしはしょう来なりたい中の一つでしたが、わたしにはむりそうなのであきらめてしまうかもしれません。 おわり

★4年生は授業で、身近な日常から感じる詩を作ってみました。

【4年 鈴木 愛良瑠】

「空」

青い空

黒い空

赤い空

水色の空

いろんな空の色

鳥が飛ぶ空

雲が一人じめしている空

雨がふる空

かみなりをおとす空

月や星を輝かす空

風をふかす空

ブランコが飛ぼうとする空



【4年 奥山 ティナ】

「なる」

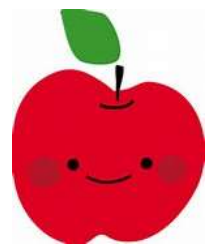
ぐうぐう ぐうぐう おなかになる。

くんくん くんくん 犬の鼻が鳴る。

りんりん りんりん 電話になる。

いっぱい いっぱい 木に実になる。

だんだん だんだん きれいな女の子になる。



【4年 鈴木 嵐】

「朝の30分」

ぐうぐう音がたつ。

おなかの音がたつ。

かりんかりんと とけいの音がたつ。

どこどこ走る音がたつ。

おかあが家のなかにたつ。



コラム

元テヘラン日本語補習校教員 池田幸代

私は冬休みの短期間ですが、学童の指導員のアルバイトに行きました。
私の住む地域は残念ですが全国でも勉強のレベルが低い地域です。

何が違うのかな？と考えていました。どんな地域に行っても勉強が得意な子、
そうでない子が混在しているはずです。

学童では一日30分だけ勉強の時間がありました。一つ感じたのは「親が
二人三脚でやってるな〜。」と宿題を見て分かる子とそうでない子でとて
も差がある事でした。特に低学年の子達です。

「いつも放ったらかしにされているであろうな〜」と感じる子に寄り添
って細かく勉強を進めてあげるとその子は必ずとっていいほど、次の日
も私に勉強を見てほしいと言ってきました。

日本では親が忙しくて子供の勉強を見ることが難しい家庭が多いです。
余裕のある親は家庭教師や塾でそこを補うのですが、経済的に余裕のない
親は自分がやらないとそこは放ったらかしになるのだと思います。

日本にいと、家庭がしっかり管理するか、塾などに行かない限り、落第もしな
いでそのまま義務教育を終える子供も多いと感じます。

補習校では本当に先生、保護者が熱心に学校の運営に取り組んでいます
し、イランの小学校の勉強は親なくしては成立しないというところも大変
良い影響を及ぼしていると考えられます。

特に低学年の間は学習するにあたり、誰かが道しるべを示してくれる事
で自分らしい勉強の仕方を取っし、大きくなるにつれて自主的に学習に取
り組んでいくのでしう。

補習校の子供達は、学習時間は少ないのですが本当に優秀だと感じます。
漢字の書き順、文字の美しさなど、本当に週一回の授業で良く身につけていと

思います。

これも先生方の努力、そして保護者の方々の意識の賜物だと思います。

規模縮小傾向になってきているようですが、自分達のしていることは非常に尊い事だと皆さんに是非自信を持って貰いたいです。

編集後記

私事ですが先日、日本へ二週間ほど行ってきました。秋から日本で暮らしている長男が一人暮らしをはじめる事になったからです。未成年なのでアパートを借りるのも、携帯電話の契約をするのも親の同意が必要な年齢なのですが、それ以外の事は、これからは自分の力でなくてはなりません。

周囲の人とコミュニケーションをとる為に会話が出来ないと困りますし、日本で働くにも、電車に乗ったりしてどこかへ遊びに行く時にも、さまざまな手続きをしたり、生活をする為には日本語の読み書きはとても重要です。

今回のことで、補習校で勉強をしてきて本当によかったと私も息子もあらためて実感しました。お世話になった先生方や保護者、関係者の皆様に大変感謝いたします。

(鈴木淳子)